

昨年実施した城山のホルトノキの治療結果と 10 年前に植樹したホル
トノキ苗木の現状について

【城山のホルトノキ萎黄病について】

徳島市の城山は、「市の木」に制定されるほどホルトノキ群落がかつては発達していたが、枯死が進み、現在は植林した苗木を除いた成木は 15 本のみである。当研究室では 2014 年(H26)にその枯死の原因が、日本各地で発生しているホルトノキの枯死と同じくファイトプラズマの感染によるホルトノキ萎黄病であることをつきとめた。そして 2015 年(H27)に城山のホルトノキを病気による枯死から守ることを目的として 2 回の試験治療を実施した。その試験治療に効果が認められたので、以下のようにお知らせする。また、10 年前に城山山麓に植樹した 300 本のホルトノキの苗木の現状についても調査したので、その結果についても以下の通りお知らせする。

【昨年実施したホルトノキ成木の治療の結果】

2015 年(H27)9 月 29 日に城山の東二の丸の 2 本のホルトノキについて薬剤の樹幹注入による試験治療を実施し、葉の中の病原菌ファイトプラズマ量の変化を調べた。2 本とも病原菌の減少が確認され、効果の強かった小さい方の木では治療前の 1/300 にまでファイトプラズマが減少した。葉に副作用があるため、木の中の病原菌を根絶することは難しいが、この方法で延命が可能であると考えている。

【10 年前に植えたホルトノキ苗木の追跡調査】

城山のホルトノキを絶やさないため、2006 年(H18)6 月に NPO「徳島城趾を愛する会」の主催で城山山麓にホルトノキの苗木を 300 本植樹した。この植樹には NPO の他、一般市民や小学生らも参加した。今回、それらの生育状況を調査し、40 本が生き残っていることが確認された。城山の北側に植えた苗木はほとんど残っていなかったが、南側でよく残っていた。植樹時は 50 cm 程度の苗木であったが、最も大きくなったものは樹高 3.5 m まで成長していた。また、残った 40 本のうち 3 本は病原菌ファイトプラズマに感染していることが判明した。感染個体の割合が低かったことは、将来のホルトノキ再生にとって朗報である。

【今後の対策について】

生き残っている苗木は、今後減ることがないように監視を続けたい。また、ファイトプラズマに感染している 3 本の苗木は、感染拡大を防ぐために除去するが望ましい(小さすぎて治療困難なため)旨、徳島市公園緑地課に申し入れた。また、全てが感染している成木については、ファイトプラズマ量の多い数本(昨年治療したものと別の木)について薬剤注入による治療を実施することが望ましい旨、同課に申し入れた。

お問い合わせ先

部局名：生物資源産学学部

責任者：佐藤 征弥

担当者：佐藤 征弥

電話番号：088-656-7222

携帯電話：090 9458 5144

メールアドレス：satoh.masaya@tokushima-u.ac.jp